

2011年度報告書（COE 教員）

氏名	森本一彦
職位	特定准教授
研究概要	<p>GCOE の関係では、コアプロジェクトのリーディングスの編集を中心とした「アジアの伝統家族」（研究代表）、フィールド班を中心とする「コミュニティ・中間圏研究」（研究分担者）に所属し、伝統家族と地域社会に関する研究を進めた。また、リーディングスの英語版と日本語版の論文の収集・編集を担当した。また、社会学研究室所蔵の村落社会調査資料のデータベース化に向けた整理をおこない、文字入力を完了して、図版などの画像入力も大半を終了した。</p> <p>個人研究としては、近世・近代の歴史資料とフィールドワークによる聞き取り調査を融合させ、伝統家族や地域社会の研究を行なった。柳田國男記念伊那民俗学研究所の調査員として飯田町・上飯田の民俗調査に参加し、飯田市近郊の混住化地域における共有林の新住民の権利について考察を行った。東近江市『能登川の歴史』資料・民俗編を執筆した。『高野町史』民俗編においては、社会生活等を執筆するとともに、編集を担当した。</p>
教育概要	<p>教育面においては、「社会学特殊講義 質的調査法の可能性」を担当し質的調査法について講義をおこなった。その中で、京都大学の錦林区のミニフィールドワークを企画・指導した。日本語学際リレー講義「親密圏と公共圏の再編成」の授業運営を行い、「伝統家族とコミュニティ」の担当責任者として授業のコーディネートを行うとともに、「伝統家族のイメージを疑う」の講義を行った。</p> <p>GOCE の教育活動においては、次世代プロジェクトなどの運営を担当し、その成果であるワーキングペーパーの発刊の支援を行うとともに、ワーキングペーパーに対するコメントを担当することによって論文指導をおこなった。また、伝統家族や地域研究を行う学生の論文の個別指導をおこなった。</p>
業績リスト（著書、論文、報告、その他に分けて主要なものを記入する）	<p>【学会発表】</p> <p>「絵系図詣にみる社会関係―東近江市伊庭妙楽寺の事例―」（単独）平成 23 年 10 月 日本民俗学会年次大会（滋賀県立大学）</p> <p>【その他】</p> <p>高野町史編纂委員会編『高野町史』民俗編（共著）高野町、平成 24 年 3 月 分担執筆「序章 高野町をめぐる環境」（pp.3-13）、「第 1 章 地縁社会のきずな」（pp.15-40）、「第 2 章 人の一生」（pp.41-53）、「第 3 章の第三節職人」（pp.89-92） 東近江市教育委員会編『能登川の歴史』第 4 巻資料・民俗編（共著）東近江市、平成 24 年 3 月〔分担執筆「第 3 章 社会組織」（pp.580-621）、「第 7 章 仏教と民俗 第 4 節 系図詣」（pp.703-707）〕</p>

